



月の光奉賛会  
令和元年9月14日 満月  
**多久頭魂神社・天神多久頭魂神社での御神事**

日時：9月14日の満月の日か、前後日

場所：豆殿の多久頭魂神社

場所：佐護の天神多久頭魂神社

(※) 教育勅語

教育勅語は、「月の光奉賛会」のホームページからダウンロードできます。  
検索キーワード「月の光奉賛会」で検索してください。

■御祈願の趣旨■

御皇室の弥栄と日本各地の宮司様の弥栄を祈り、世界の平和を祈念し、そういう活動を支えられる地域経済の繁栄を願います。  
宮司様に大祓祝詞を奏上していただき、参列者で教育勅語を奉唱します。

■「月の光奉賛会」とは■

「月の光奉賛会」とは、日本神話の源流をなす伊邪那岐命と伊邪那美命の国生みの島々、神話に由来する島々を顕彰する奉賛会です。代表を務める成田亨は、平成7年(1995年)の阪神淡路大震災以降、家族で日本各地の1500カ所以上の神社を参拝してきました。

御神職の方々その先には、天皇陛下がおられるものなので、平成から令和への御代替りにあたって、こういうことが自覚できるように御神事をやっっていくことを目的として設立しました。

月の光奉賛会の名称で、玉串料をお送りします。

みなさまの地元の神社の宮司様に対馬のチラシをお渡し、そして、地元神社に玉串料を納め、対馬に合わせた御神事を願います。

■令和元年5月13日に行われた「斎田点定の儀」の亀ト(きぼく)■

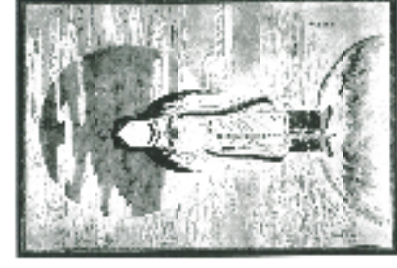
令和元年5月13日、皇居宮中三殿の神殿の前で行われた「斎田点定の儀」の亀ト(きぼく)によって、東の「悠紀(ゆき)」地方として栃木県、西の「主基(すき)」地方として京都府が決定しました。

令和元年11月14-15日の大嘗祭では両地方のお米が使われることになりました。

東西の悠紀・主基に対して、対馬では南北の悠紀・主基が定められています。対馬南部の豆殿にある多久頭魂神社が悠紀宮と呼ばれ、対馬北部の佐護にある天神多久頭魂神社が主基宮といわれています。

悠紀(ゆき)・主基(すき)の語源については不明といわれていますが、彦火出見尊の父神である瓊々杵尊が天孫降臨される時、降臨地点を「行き過ぎ」ないように座標軸を示されたものと思われまます。高皇産霊神や神皇産霊が、お働きになられていた遠い神代の昔から、対馬には、座標軸を示す特別な使命が与えられていたのだと思います。

悠紀・主基を決める亀ト(きぼく)は、御皇室と対馬の豆殿に伝承されるのみにとまっていることを鑑みて、豆殿の重要性が示されています。さらに、豆殿と対で語られる北の佐護の位置がわかります。



さらに、豆殿に伝承されている「天童」は、地球の大天変地異があった時代、伊勢の天照大御神さまを陰ながらサポートするために龍良山(たつらさん)に降臨された天照皇大御神さまの御姿です。

天照皇大御神さまは、神様として降臨されたのではなく、「童(男の子のわらべ)」として降臨されているので、特別に対馬では「天童」と尊称してききました。

度重なる変転によって、現在では、「天童」と「天道」が混同、習合し由来が失われています。

平成から令和への御代替りに当たって、遠い神代の昔から古代、近現代史において対馬の果たした役割に思いを馳せ、満月の日か、その前後に祈りを捧げたいと思います。

＜ 月の光奉賛会 代表 成田亨 >

〒177-0033 東京都練馬区高野台1-23-30 ガーデンコート高野台805

携帯 080-9175-4666 メール naritatooru@gmail.com